歴史地震
第 25 号(2010) 114 頁

［講演要旨］安政東海地震（1854）による江戸及び関東全域の震度分布

松岡祐也（東北大学）・都司嘉宣（東京大学地震研究所）

§１．はじめに

安政東海地震に関わる史料は各地に豊富に残っており，それらの史料を用いた研究の蓄積も十分にあると言えるだろう．これまでになされた研究では，主として東海地方の被害を対象としており，江戸・関東を扱った研究はあまりない．

『新収日本地震史料』第五巻別巻 5-1（地震研究所，1987，以下『新収』）などの各地震史料集を見るだけでも，江戸における安政東海地震の被害記事は多く，また関東各地での被害を示す記事もいくらか存在することが分かる．しかしこれらを十分に活用されているとは言えないことは，上記のように江戸・関東を対象とする安政東海地震研究の少なさが示している．

今回は，それら江戸及び関東における安政東海地震の被害記事を抜き出し，史料に記された地点が現在地図上に同定し，地図上に落とすことにより，この地震による被害状況を一見できるようにすることを目的としている．特に江戸についてはピンポイントに場所を確定することを目指した．

§２．史料集利用上の問題点

『新収』では史料の残された都道府県ごとに史料をまとめて掲載しており，そのためこの史料集は大変利用しやすいものとなっている．

しかし，今回この作業を行っている中で，この史料集を利用する上で注意を要する点が見つかった．それは，史料の残された地域と実際に書かれた被害地が一致しない場合があるというものである．それ自体は数があるわけではなく，また地名が示されているものがほとんどであることから，それを誤って利用するということは少ないかと思われる．

今回の作業でもほとんどそのようなものはなかったのだが，一点誤りそうな史料があった．それは近江八幡市の史料で『市田家日記』というものである．そこには「辰中刻過地震大にゆり，瀬戸物店釣土瓶落家並に諸人表へ出る，（中略）今朝之地震土蔵少々損し壁に筋出候場所も有之，先年善光寺地震之節より一段強候様子なり」とあり，一見すると近江八幡市も安政東海地震で被害を受けたのだと読むことができる．しかし『新収』には同じ市田家の史料がもう一つ掲載されている．それは『歳々記録』というものであり，それを見ると「高崎瀬戸物店釣土瓶落，土蔵壁に筋出，家並に諸人表へ出る，」と書かれ，「高崎」という地名が出てくる．これは現在の群馬県高崎市のことであり，市田家の瀬戸物店が群馬県にあり，その店が被害を受けたというのである．ここから，『市田家日記』の記事も群馬県でのことを記していることが分かるのである．

§３．江戸市中の詳細震度分布

以上の方法によって得られた江戸市中の詳細震度分布を図１に示す．大名・旗本の江戸屋敷の所在については，『嘉永・慶応　江戸切絵図』（人文社，1995）を参照した．この原図は尾張屋清七版である．

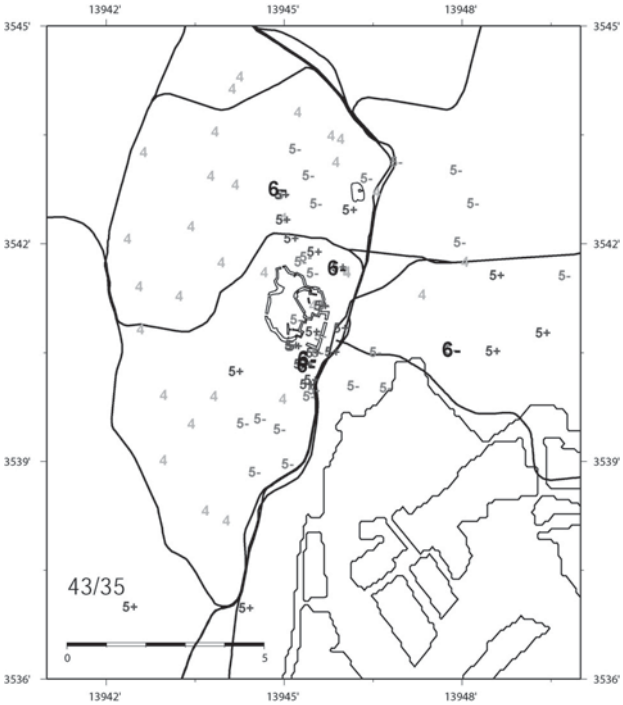

図１：安政東海地震による江戸市中の詳細震度分布

江戸城東部（現・丸の内）及びそこから北東に向かって神田小川町・神保町，現在の水道橋駅から小石川水戸藩邸（現在の後楽園球場付近）に至る線上で，震度の大きな場所が伸びている事が分かる．さらに丸の内から南側（現・日比谷公園）の桜田，虎ノ門，新橋にかけても震度の大きな場所が広がっている．また隅田川の東にあたる現在の江東区で震度が大きかった．